



2019年3月期 第1四半期決算 決算短信補足資料

2018年8月3日
日本水産株式会社

◆前年同期比 増収・増益。

年間計画に対しても順調に推移しており、中計初年度として良いスタートが切れた。

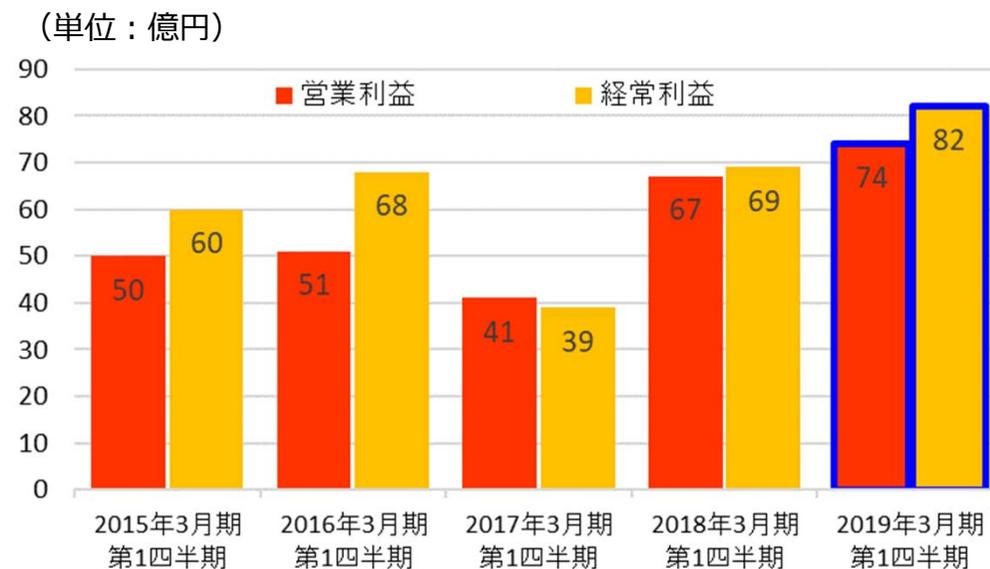
(単位:億円)	2019年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
		(億円)	(%)
売上高	1,747	117	107.2
営業利益	74	7	111.0
経常利益	82	12	117.5
四半期純利益	52	0	101.4

2019年3月期 年間計画	
(億円)	進捗率 (%)
6,980	25.0
220	34.0
235	35.0
160	32.7

売上高



営業利益・経常利益

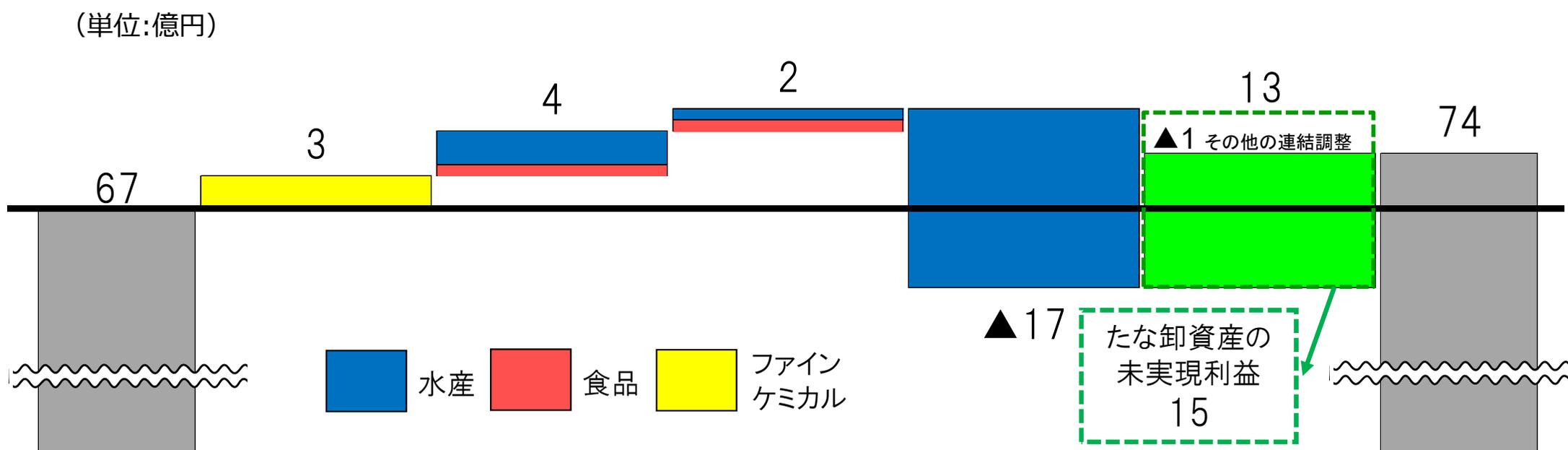


◆主要3事業とも増収・増益。

(単位:億円)	2019年3月期 第1四半期	2018年3月期 第1四半期	対前年同期比増減		2019年3月期 年間計画	進捗率 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	1,747	1,629	117	107.2	6,980	25.0
水産事業	698	665	33	105.0	2,772	25.2
食品事業	868	811	57	107.0	3,401	25.5
ファインケミカル事業	61	59	1	103.0	276	22.4
物流事業	41	40	1	102.6	167	24.6
その他	77	52	24	146.9	364	21.2
営業利益	74	67	7	111.0	220	34.0
水産事業	34	34	0	100.1	101	34.6
食品事業	40	39	1	103.2	118	34.4
ファインケミカル事業	6	2	3	227.0	29	21.2
物流事業	4	4	▲0	88.8	20	21.1
その他	3	1	1	185.0	12	28.9
全社経費	▲14	▲16	1	90.1	▲60	24.3
経常利益	82	69	12	117.5	235	35.0
親会社株主に帰属する四半期純利益	52	51	0	101.4	160	32.7
EPS(1株当たり純利益)	16.81円	16.58円	-	-	51.37円	-

主な営業利益増減要因

◆ファインケミカル事業、北米・欧州事業が販売増やコスト削減などで増益。一方、南米の鮭鱒養殖事業は販売価格の下落で減益も、在庫に含まれる未実現利益の調整がプラスに働き、全体では増益。



(主な増減要因)	国内		海外		連結調整 (たな卸資産の未実現利益、のれん償却等含む)	2019年3月期 第1四半期
	<ファイン>	<北米>	<欧州>	<南米>		
2018年3月期 第1四半期	国内外の機能性原料ビジネスの拡大、通販事業での広告宣伝費の削減	水産: すりみや助子の販売単価の上昇、労務コストの削減 食品: コスト削減	水産: 販売エリアの拡大や為替の影響 食品: 生産体制の整備が進み大幅増収	鮭鱒の販売数量は増加したものの、販売価格が下落		

◆純資産は若干改善も、2018年3月期から大きな変動はない。

() 内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

流動資産 2,543 (+11)

現金及び預金	188 (▲37)
受取手形及び売掛金	895 (+48)
棚卸資産	1,221 (▲1)

固定資産 2,263 (▲27)

有形固定資産	1,297 (▲29)
無形固定資産	108 (▲7)
投資その他の資産	857 (+9)

総資産 4,806 (▲15)

流動負債 2,146 (+18)

支払手形及び買掛金	475 (+28)
短期借入金	1,225 (+74)
その他	119 (▲49)

固定負債 1,065 (▲56)

長期借入金	824 (▲63)
-------	-----------

純資産 1,593 (+22)

自己資本	1,402 (+24)
------	-------------

自己資本比率

'18/3 28.6% ⇒ '18/6 29.2%

◆営業キャッシュフローが改善。

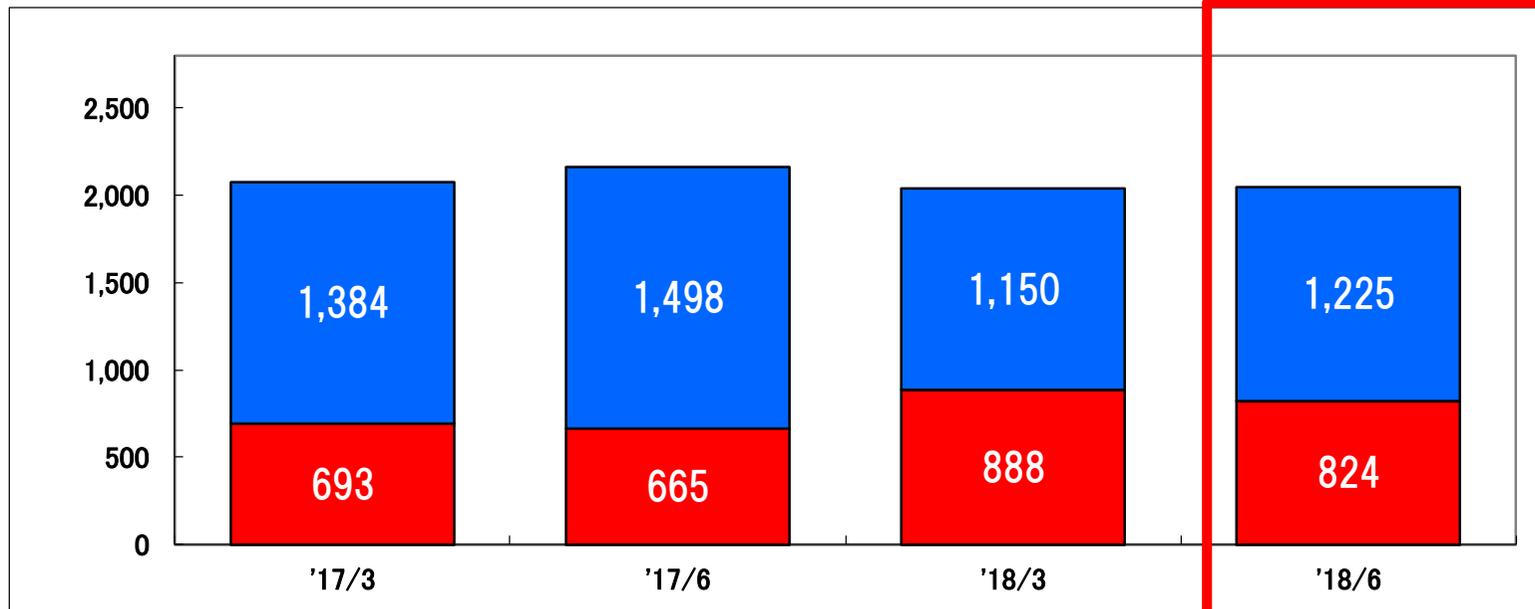
(単位：億円)

	2019年3月期 第1四半期実績	2018年3月期 第1四半期実績	増減
・税金等調整前四半期純利益	84	79	4
・減価償却費(のれん償却含む)	43	39	4
・運転資本	▲ 48	▲ 55	6
・法人税等の支払額	▲ 28	▲ 31	3
・その他	▲ 28	▲ 44	16
営業活動によるCF	22	▲ 12	35
・設備投資額(固定資産取得額)	▲ 36	▲ 55	18
・その他	52	34	18
投資活動によるCF	15	▲ 21	37
・短期借入金の増減額	41	108	▲ 67
・長期借入金の増減額	▲ 43	▲ 11	▲ 32
・その他	▲ 15	▲ 21	5
財務活動によるCF	▲ 17	75	▲ 93
現金及び現金同等物の期末残高	259	292	

◆借入レートの低下で純金利負担が減少。

(単位：億円)

■ 短期借入金
■ 長期借入金



前期末
比増減

+74

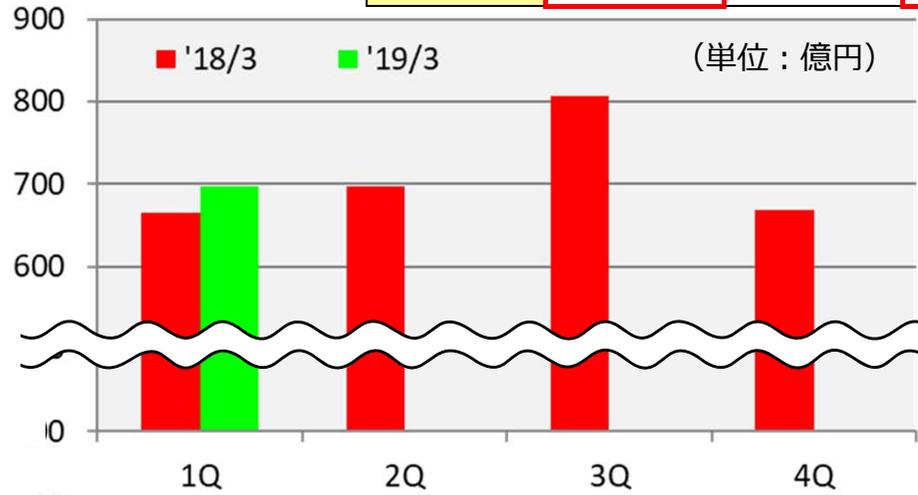
▲63

借入金合計	2,077	2,163	2,038	2,050	+11
短期借入金	1,384	1,498	1,150	1,225	+74
長期借入金	693	665	888	824	▲63
純金利負担	10.4	3.3	8.8	2.7	
対営業利益純金利負担率	5%	5%	4%	4%	
支払利息	21.7	5.1	20.0	4.6	
受取利息	2.3	0.5	3.5	0.7	
受取配当金	8.8	1.2	7.6	1.1	
為替レート (US\$1)	@116.49(12月末)	@112.19(3月末)	@113.00(12月末)	@106.24(3月末)	

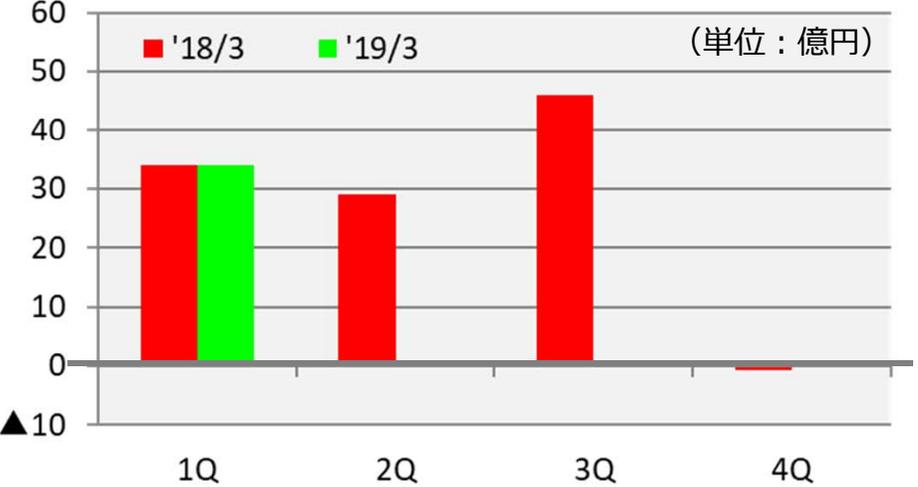
◆国内漁撈・欧州事業が順調に推移し増収。利益は、ニッスイ個別で仕入価格の上昇や販売価格の下落があったものの、未実現利益の調整がプラスに働き前年同期並みを確保。

(単位: 億円)	2019年3月期	2018年3月期	対前年同期比増減		2019年3月期	進捗率
	第1四半期	第1四半期	(億円)	(%)	年間計画	(%)
売上高	698	665	33	105.0	2,772	25.2
営業利益	34	34	0	100.1	101	34.6

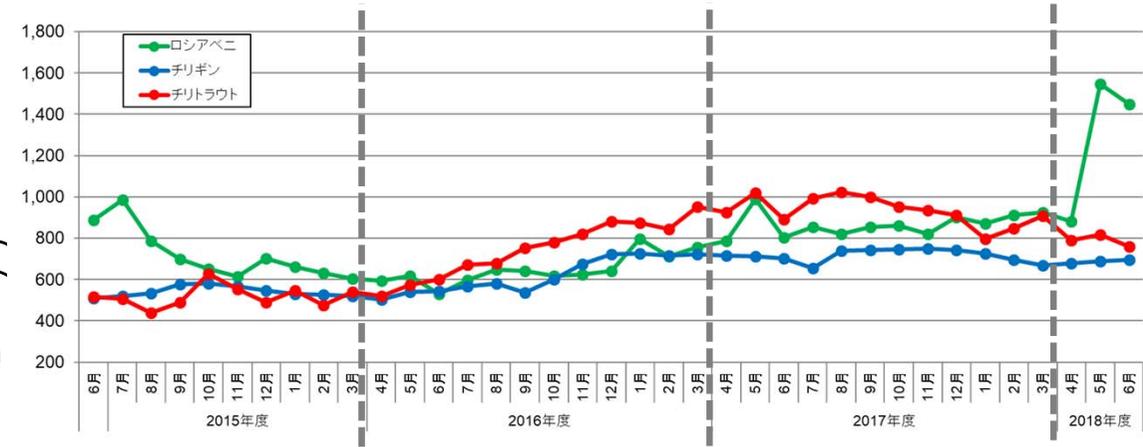
売上高



営業利益



＜国内水産物市況 鮭鱈＞ (財務省貿易統計より算出) (単位: 円/kg)



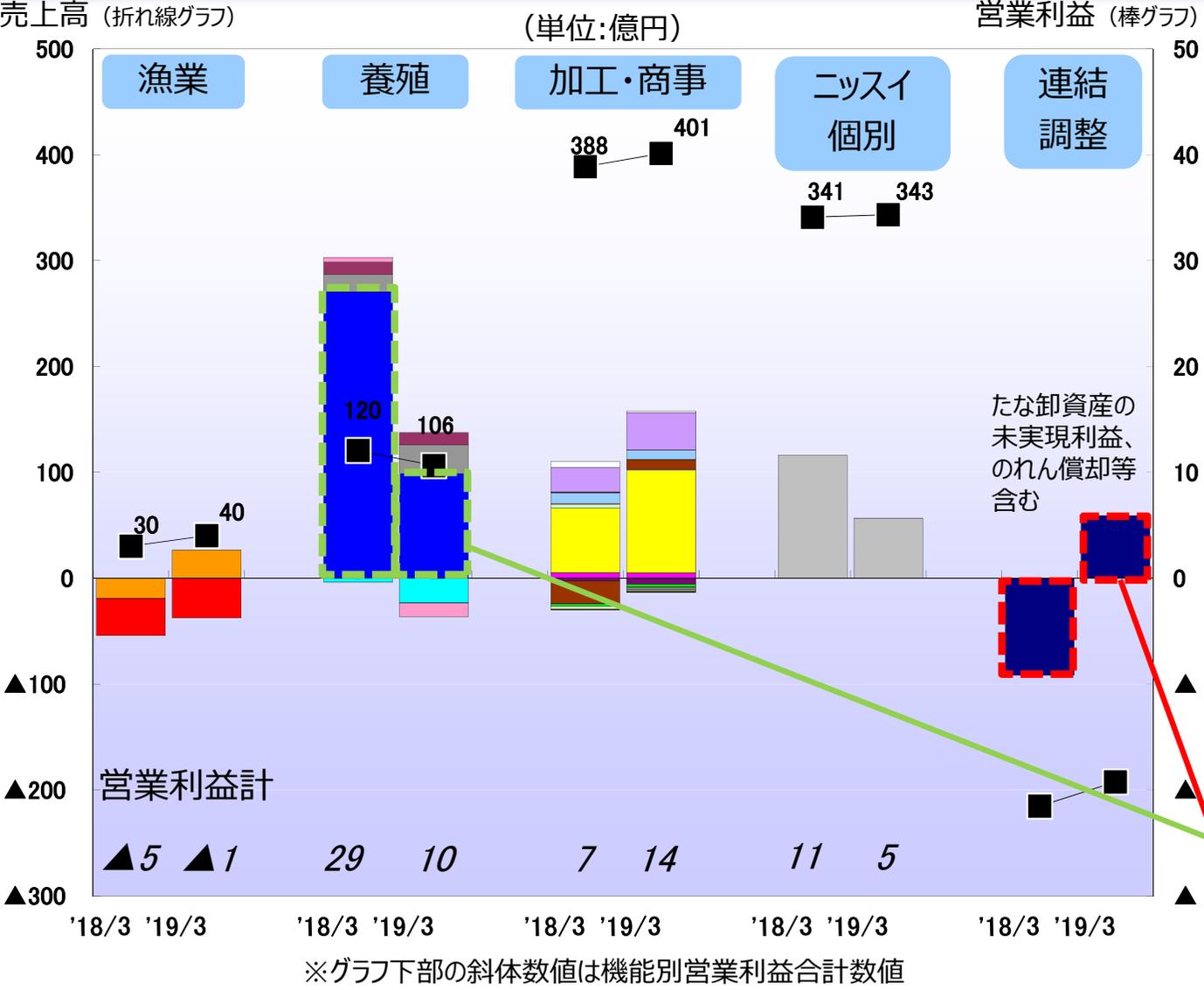
＜国内ぶり養殖事業＞



黒瀬の若ぶり
 くらとのむかふり

夏だけの愉しみ、
 おいしい“若ぶり”

水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

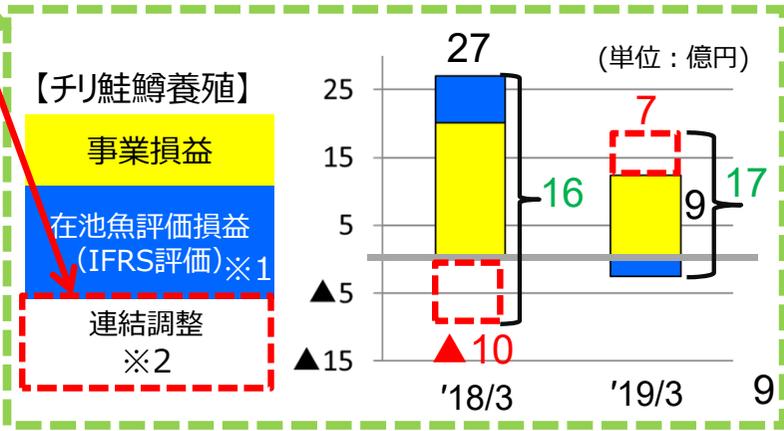


主な増減要因

【漁業】(増収増益)
 ・日本：かつおなどの漁獲が好調

【養殖】(減収減益)
 ・チリ鮭鱒(トラウト) 養殖事業
 販売数量増加するも販売価格下落
 ・国内養殖事業
 まぐろ：販売価格下落
 ぶり：販売尾数増加、販売価格上昇
 鮭鱒(銀鮭)：魚病による生産コスト増

【加工・商事】(増収増益)
 ・アメリカのすけそうだら事業
 すりみや助子の販売単価上昇や労務コスト削減効果で増益
 ・欧州
 新規ビジネスへの取組、販売エリア拡大

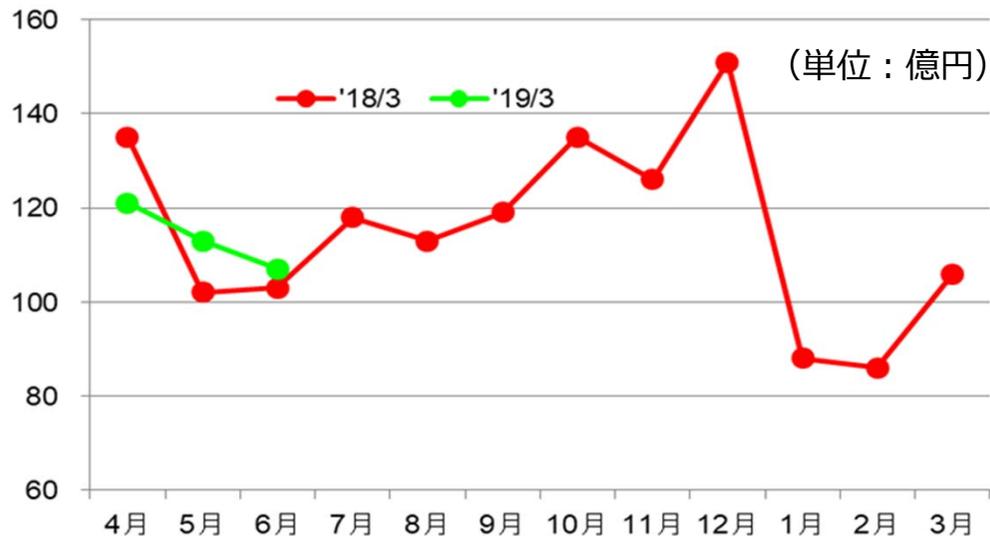


※1 国際財務報告基準(IFRS)に基づき四半期決算毎に出荷・販売前の養殖魚(在池魚)の時価評価を行い、営業損益に計上しております。

※2 南米鮭鱒養殖事業の在庫に含まれる未実現利益の調整。

◆ 鮭鱒などの仕入価格の上昇やえびの販売価格下落により減益。

<売上高 (月別)>

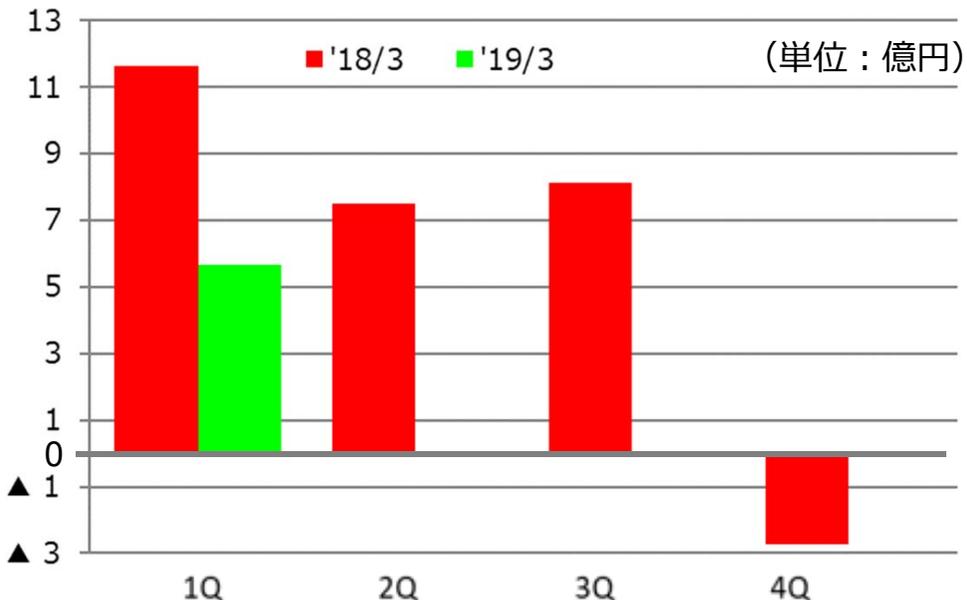


<主要魚種別 売上高 (前年同期比)>

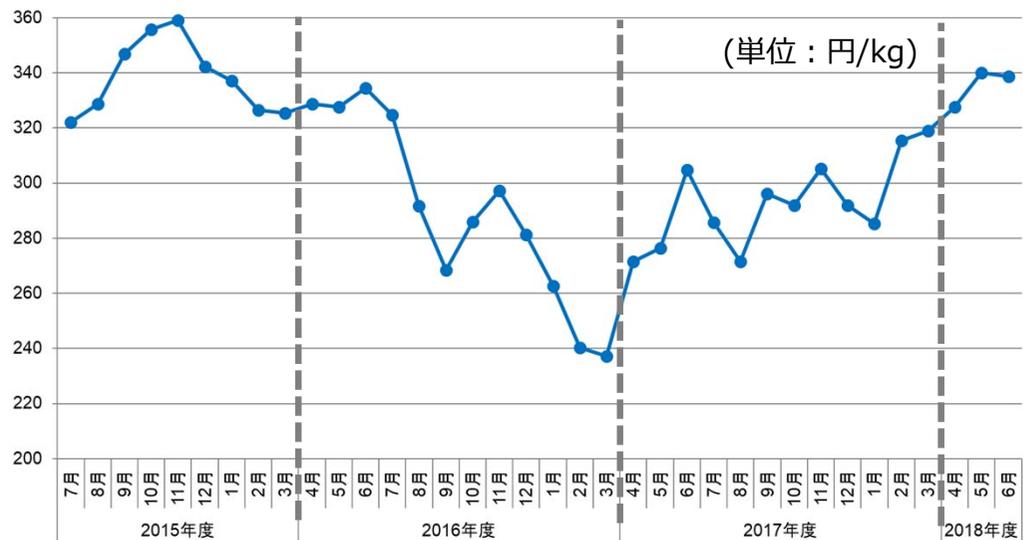
※飼料油飼計：飼料・魚油・ミールの合計



<営業利益 (四半期別)>



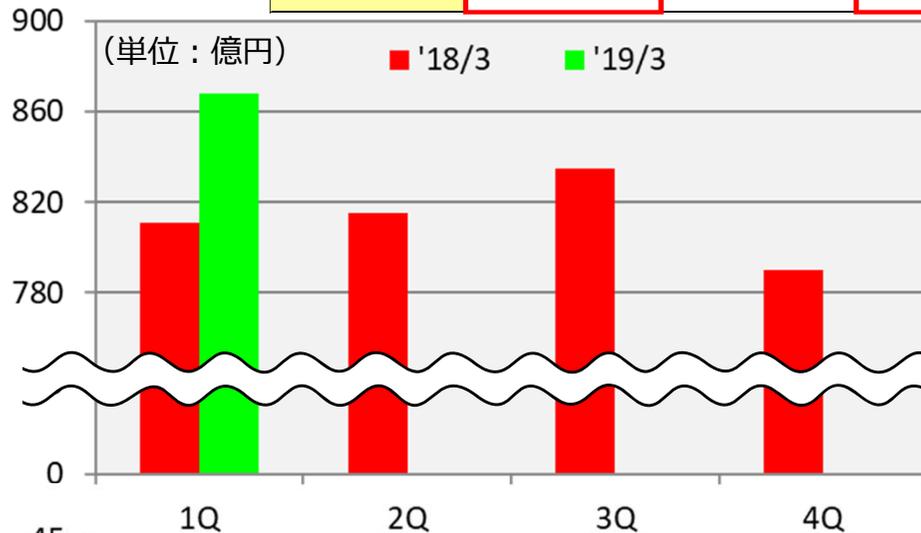
<冷凍すりみ輸入価格推移 (財務省貿易統計より算出)>



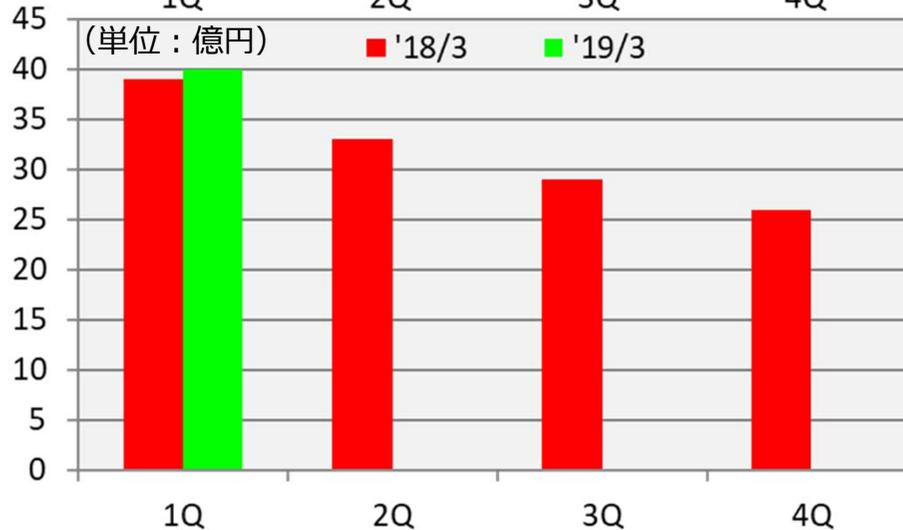
◆海外は北米・欧州が増益。国内は、チルド事業が順調。

(単位:億円)	2019年3月期 第1四半期	2018年3月期 第1四半期	対前年同期比増減		2019年3月期 年間計画	進捗率 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	868	811	57	107.0	3,401	25.5
営業利益	40	39	1	103.2	118	34.4

売上高



営業利益



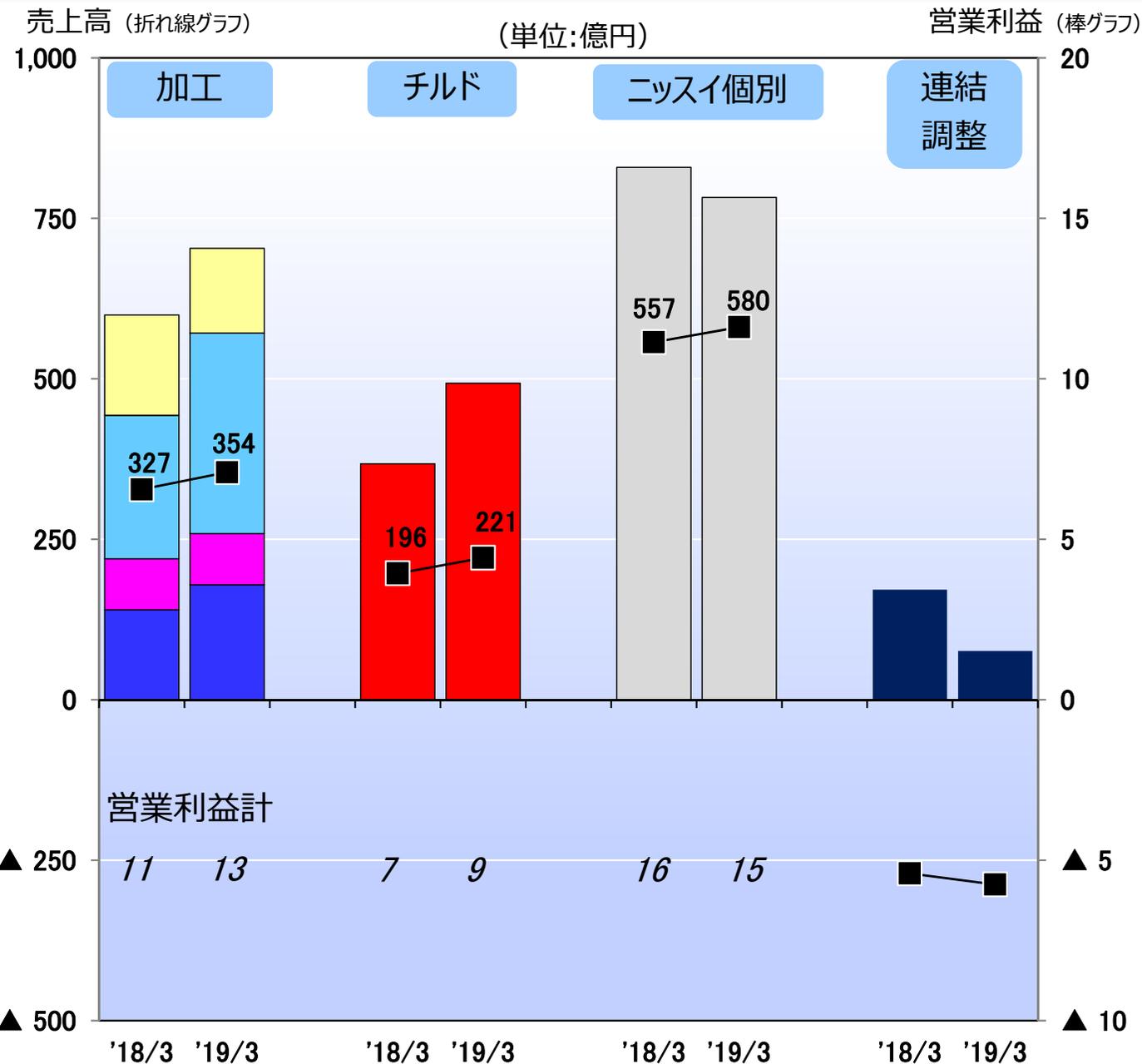
日本クツカリ株式会社



八千代工場



食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)



主な増減要因

【加工】(増収増益)

- ・北米
家庭用冷凍食品では為替の影響等により減収となるも、コスト削減効果もあり増益
- ・ヨーロッパ
マーケットの拡大を目指した生産体制の整備が進み、Child商品を中心に大幅増収
- ・日本
冷凍食品は米飯や野菜が順調だが、魚肉ソーセージは苦戦

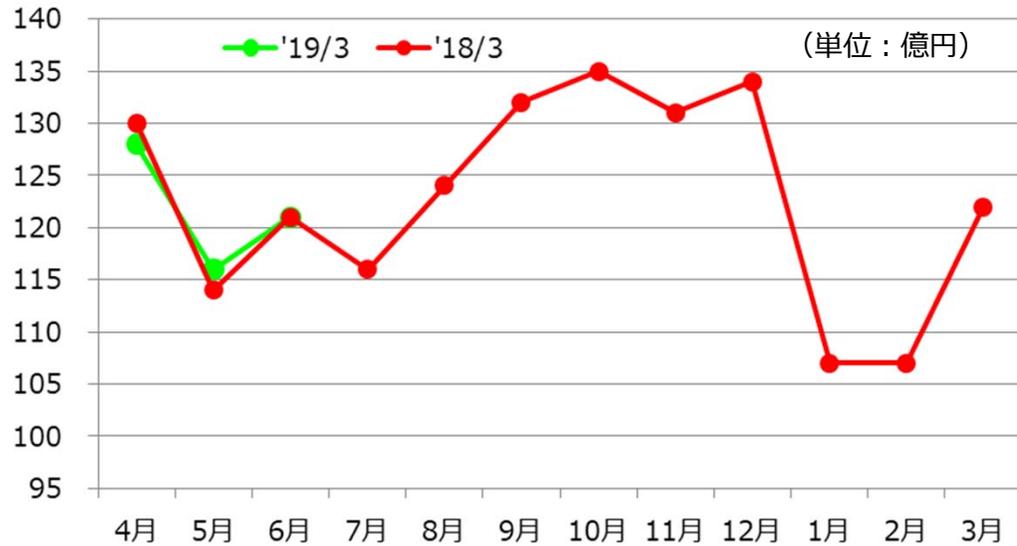
【Child】(増収増益)

- ・コンビニエンスストア再編による供給店舗増加に加え、米飯類や調理麺の販売が伸長

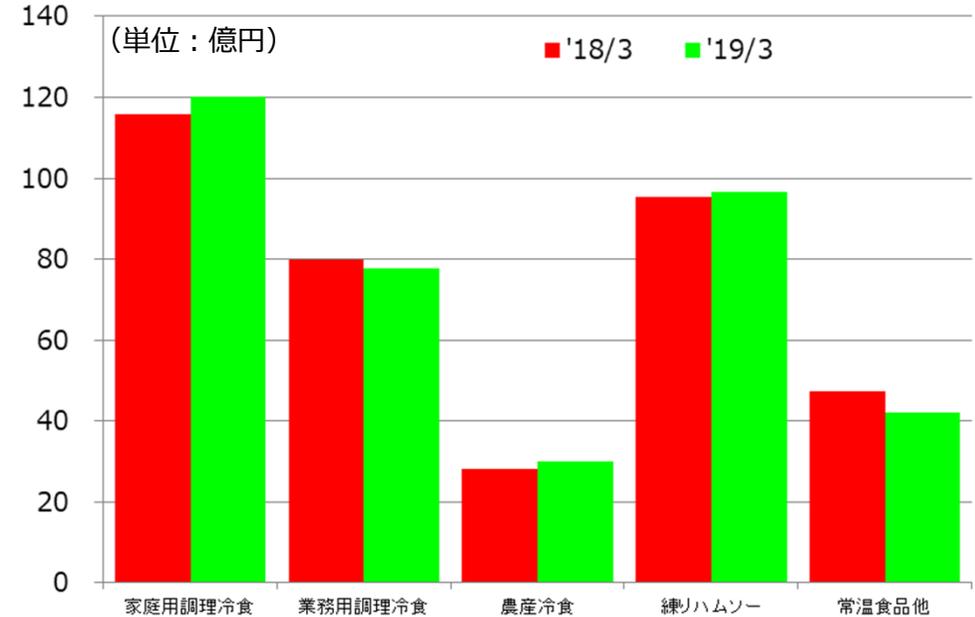
※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

◆家庭用冷凍食品は順調に推移。魚肉ソーセージは苦戦。

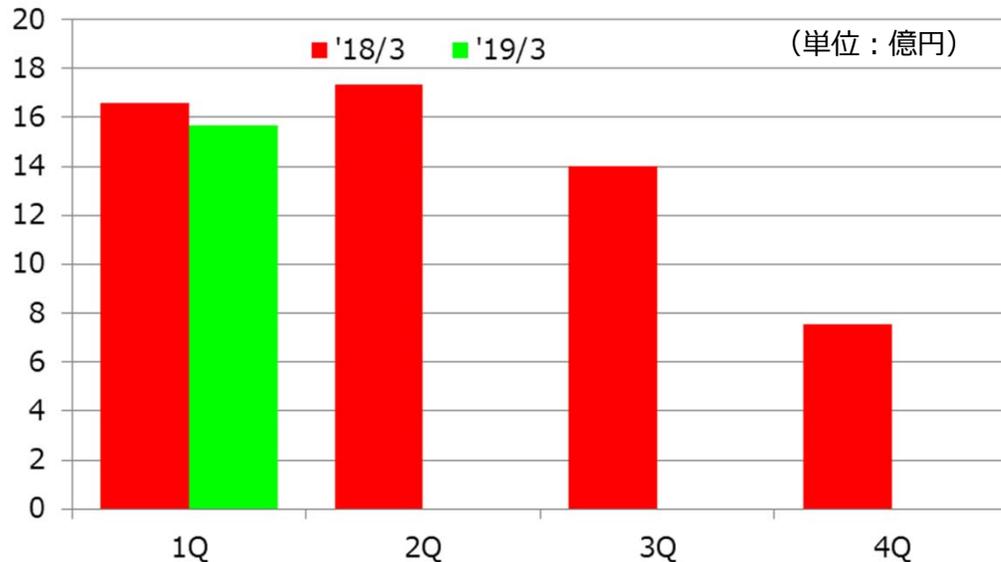
<売上高 (月別) >



<カテゴリー別 売上高(前年同期比) >



<営業利益 (四半期別) >



<販売が好調な市販用冷凍食品>



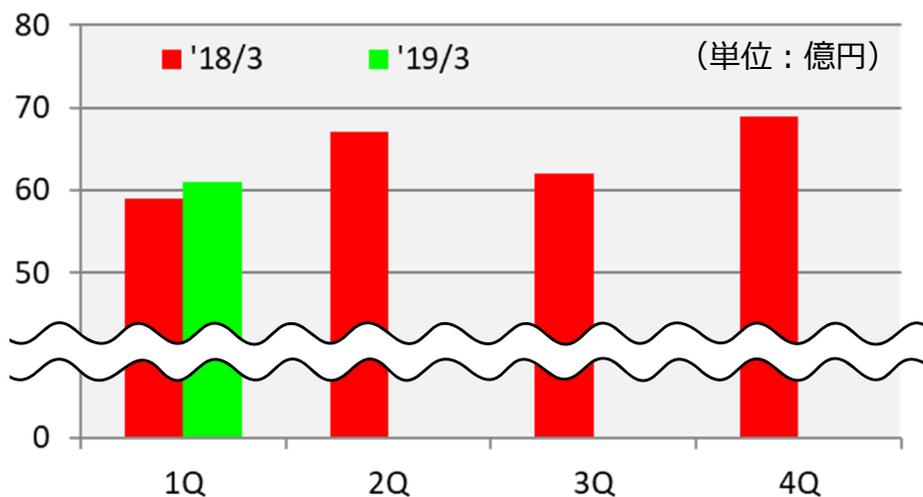
◆国内外の機能性原料ビジネスの拡大に加え、広告宣伝費を効率的に使用し利益を確保。

(単位: 億円)	2019年3月期	2018年3月期	対前年同期比増減	
	第1四半期	第1四半期	(億円)	(%)
売上高	61	59	1	103.0
営業利益	6	2	3	227.0

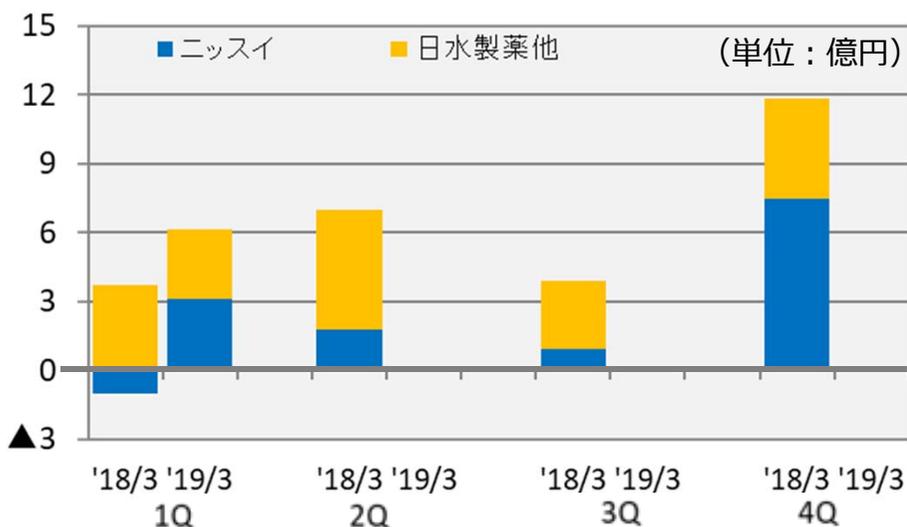
2019年3月期	進捗率
年間計画	(%)
276	22.4
29	21.2



売上高



営業利益



主な増減要因

【ニッスイ個別】

- ・機能性原料：国内ではサプリメント向け、海外では欧州で粉ミルク向け原料の販売増加
- ・機能性食品：通販事業の広告宣伝費の削減

【グループ】

- ・事業の見直し（化粧品事業の売却）の影響などにより、減収・減益

＜ニッスイスポーツEPAご愛飲者＞

疲労回復や筋肉痛などからのリカバリーの良さをご実感いただいています。



埼玉西武ライオンズ
秋山翔吾選手

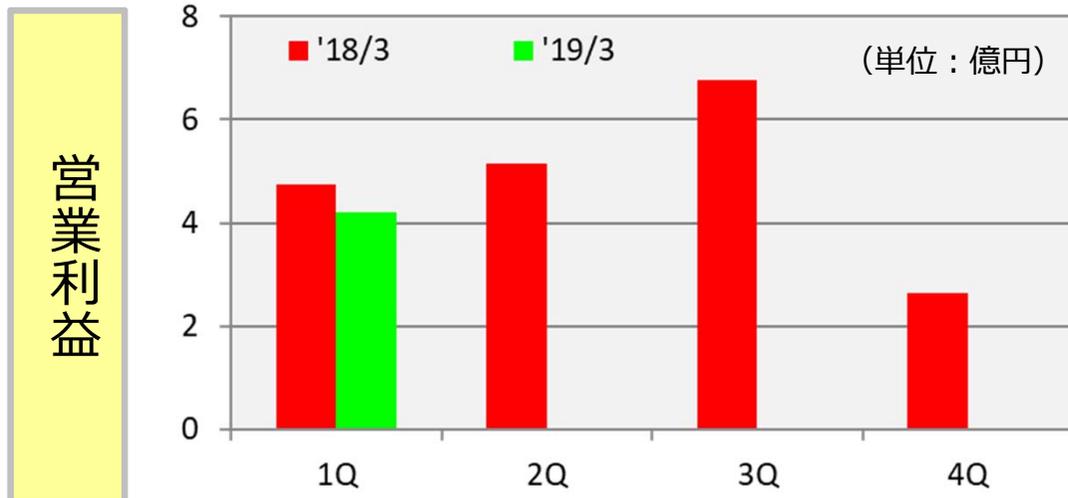
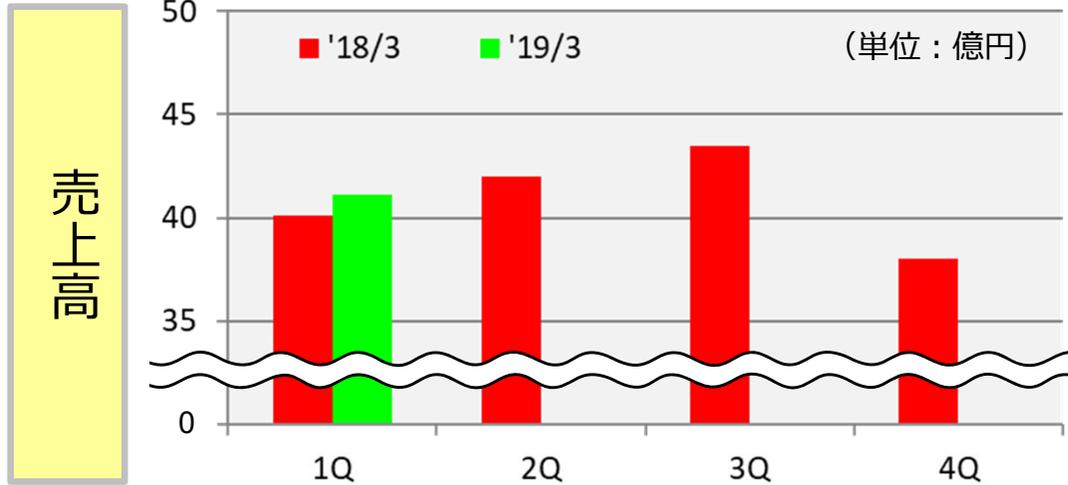


©SEIBU Lions TEAM KEN'S
トライアスロン 日本代表 佐藤優香選手

◆平和島冷蔵庫の営業再開により増収。

(単位:億円)	2019年3月期 第1四半期	2018年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	41	40	1	102.6
営業利益	4	4	▲0	88.8

2019年3月期 年間計画	進捗率 (%)
167	24.6
20	21.1



主な増減要因

- ・平和島冷蔵庫の営業再開もあり増収
- ・労務費や電力料などのコスト増加

<日水物流・平和島物流センター (10,557トン)>
リニューアルされた東京団地冷蔵内に位置し2018年3月より再稼働



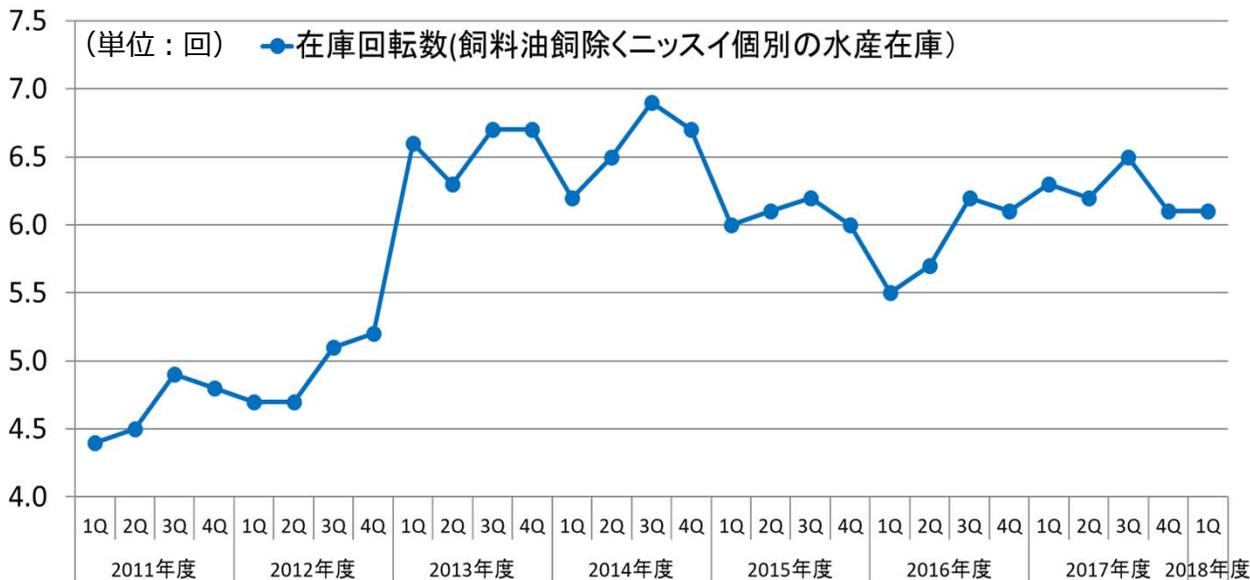
■南米鮭鱒養殖事業

- 加工度を高めて付加価値を高める
- 生産数量減少の影響を低減するため、養殖成績の改善を目指す
 - ・防疫・衛生管理を徹底し、魚病の発生・斃死を最小限に抑える
 - ・養殖成績の良い養殖場の優先使用と飼育密度の低減



■国内販売

- 適正な仕入と在庫コントロールを継続し利益確保に努める



■国産陸上養殖バナメイエビ 「白姫えび」発売

- 「国産」「持続可能性」「高鮮度・生食可」「安全・安心」をキーワードに、「圧倒的なおいしさ」で新たなマーケットを創造していく



今後の取り組み: 食品・水産事業



■ マーケットニーズに 対応した商品展開

簡単・便利な惣菜



(缶詰)

多様なライフスタイル
への対応



(冷凍食品)



(冷凍食品)



(練り製品)

健康訴求
への対応



(冷凍食品)



(冷蔵品)

強みのある魚種を
活用し人気
メニューでご提案

減少する魚食
への対応



(冷凍食品)

豊かな海を守り、持続
可能な水産資源の
利用と調達を推進

■ 欧州での事業拡大

● 堅調なチルド商品や野菜製品の更なる販売拡大



冷凍
魚フライ



チルド
魚フライ



野菜
製品

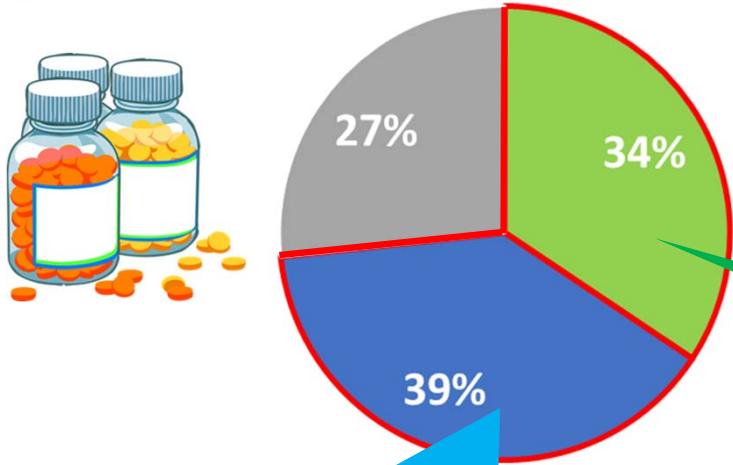


■ 機能性原料の販売強化

- 当社の機能性原料販売の70%超をEPA・DHAがしめている。国内外ともサプリメント・健康食品向け原料販売を拡大するとともに、特に海外では粉ミルク用DHAを強化していく。

2018年度1Q 機能性油脂販売割合

■ 海外EPA・DHA ■ 国内EPA・DHA ■ その他

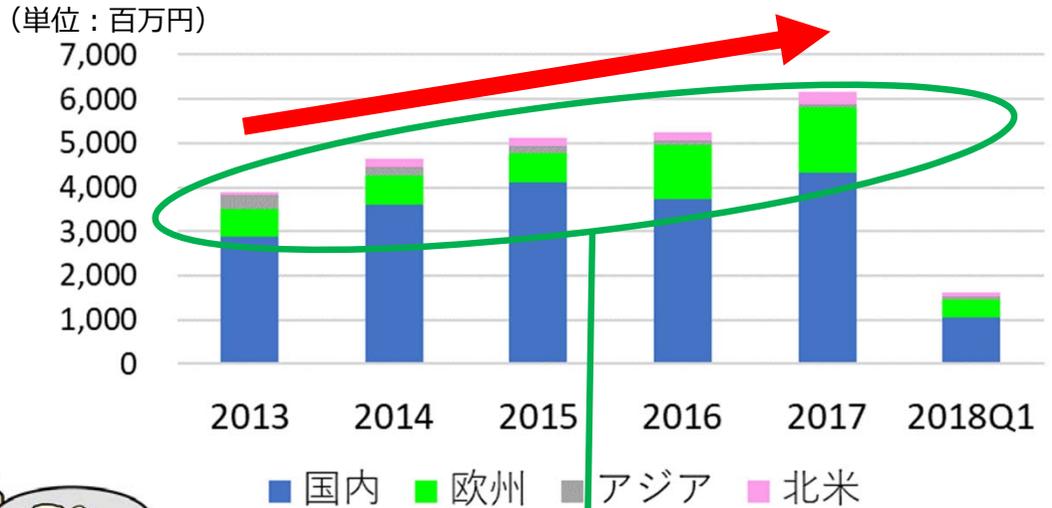


国内では、サプリメントなどの原料として使用されている。

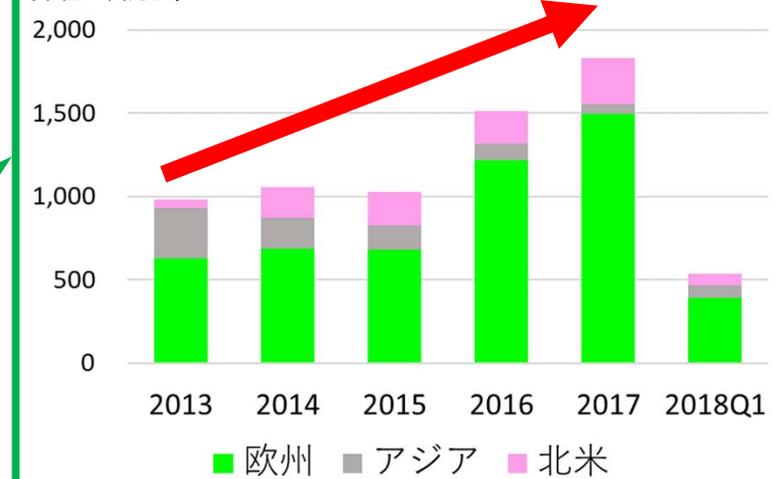


レギュレーションの変更で、欧州への乳児用粉ミルク向けのDHAの販売が急伸長している。

機能性油脂エリア別売上推移



海外（輸出）エリア別売上推移



健康で能力を発揮できる環境を整備し、生産性向上につなげる

①健康促進 キャンペーンの実施

生活習慣を見直す行動の支援

主な応募状況



1日10,000歩

134件



魚中心の食生活

151件



規則的な歯磨き

152件

②EPA/AA比 (※) の改善

⇒心血管系疾患リスク
低減をすすめる

全社員の健康診断で
測定し、健康意識
を高める

③「育児・介護・健康」 をサポート

従業員のライフイベントをサポート
する福利厚生サービスを導入

合計:約1,100件適用

＜主な適用例＞



介護サポート



医療費補助

④禁煙施策の実施

当社喫煙率29.3%
(全国平均18.3%)



⑤テレワークの全社試験導入

移動負荷軽減、私生活との両立、
災害BCP対策

362名申請 (職員の約3割)



(※) EPA/AA比：血中のEPAと畜肉に多く含まれている脂肪酸アラキドン酸(AA)の比率を表す値。血液中の脂肪酸の中で、EPAは動脈硬化を抑制するよう働きますが、一方アラキドン酸(AA)は炎症を引き起こし、動脈硬化を促進するように働きます。心血管系疾患の患者では、このEPA/AA比が低いことが報告されています。

◆前年同期比で増収・増益。

	2019年3月期 第1四半期実績	2018年3月期 第1四半期実績	増減	主な増減要因
売上高	1,747	1,629	117	
売上総利益	368	364	3	
販売費・一般管理費	293	297	▲3	
営業利益	74	67	7	
営業外収益	12	7	4	持分法投資損益(+2)
営業外費用	4	5	▲0	
経常利益	82	69	12	
特別利益	4	13	▲9	投資有価証券売却益(▲8)
特別損失	2	4	▲2	関係会社株式売却損(▲2)
税金等調整前四半期純利益	84	79	4	
法人税等	17	22	▲5	
法人税等調整額	12	3	8	
四半期純利益	54	53	1	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	1	1	0	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	52	51	0	

※当第1四半期連結会計期間より、在外子会社等の収益及び費用については、各社の決算日の直物為替相場により円貨に換算する方法から、期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更したため、遡及適用後の数値で前四半期連結累計期間との比較を行っている。

【参考】セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)



◆日本・欧州が伸長。

(単位:億円)

	日本		北米		南米		アジア		ヨーロッパ		仮計		連結調整		連結計	
水産事業	561	(5)	123	(▲8)	52	(▲10)	20	(1)	132	(21)	891	(10)	▲192	(22)	698	(33)
	555		131		63		18		111		880		▲215		665	
食品事業	884	(45)	155	(▲14)			18	(2)	111	(44)	1,169	(77)	▲301	(▲20)	868	(57)
	838		169				15		67		1,091		▲280		811	
ファイン事業	69	(4)					1	(0)			70	(5)	▲8	(▲3)	61	(1)
	64						0				65		▲5		59	
物流事業	75	(3)									75	(3)	▲34	(▲2)	41	(1)
	72										72		▲32		40	
その他事業	107	(35)					0	(▲0)			108	(35)	▲31	(▲10)	77	(24)
	72						0				72		▲20		52	
仮計	1,698	(94)	278	(▲22)	52	(▲10)	40	(4)	244	(65)	2,315	(131)				
	1,603		301		63		35		178		2,183					
連結調整	▲451	(▲22)	▲44	(14)	▲39	(2)	▲28	(▲4)	▲4	(▲3)			▲568	(▲14)		
	▲428		▲58		▲41		▲24		▲0				▲553			
連結計	1,247	(72)	234	(▲8)	13	(▲8)	11	(▲0)	240	(62)					1,747	(117)
	1,174		243		21		11		178						1,629	

※1

(単位:億円)

通貨名	為替影響	為替影響以外	計
USD	▲16	▲17	▲34
EUR	8	14	22
DKK	11	9	21
他	1	26	28
計	4	32	37

※2

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※1)前年同期実績比増収+117億円の主な内訳:

+94億円 (日本の増収)

+37億円 (※2 海外グループ会社における増収。内訳は右表)

▲14億円 (連結調整)

【参考】セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)



◆各エリアとも概ね順調。

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	9 (▲1)	10 (3)	5 (▲17)	▲0 (▲0)	3 (1)		28 (▲15)	5 (15)	34 (0)	5.0 (▲0.2)
	10	7	23	0	2		44	▲9	34	5.2
食品事業	25 (0)	5 (0)		2 (0)	5 (1)		39 (3)	1 (▲1)	40 (1)	4.7 (▲0.2)
	25	4		1	4		35	3	39	4.9
ファイン事業	5 (3)			0 (0)			6 (3)	0 (0)	6 (3)	10.0 (5.4)
	2			0			2	▲0	2	4.5
物流事業	4 (▲0)						4 (▲0)	0 (0)	4 (▲0)	10.2 (▲1.6)
	4						4	0	4	11.8
その他事業	3 (1)			0 (▲0)			3 (1)	▲0 (0)	3 (1)	4.5 (0.9)
	2			0			2	▲0	1	3.6
全社経費						▲14 (1)	▲14 (1)	0 (▲0)	▲14 (1)	
						▲16	▲16	0	▲16	
仮計	48 (2)	15 (4)	5 (▲17)	2 (0)	9 (2)	▲14 (1)	67 (▲6)			
	45	11	23	2	6	▲16	73			
連結調整	0 (▲2)	▲0 (0)	8 (17)	▲0 (▲0)	▲0 (▲0)	▲0 (▲0)		7 (13)		
	3	▲1	▲8	0	0	0		▲6		
連結計	48 (0)	15 (4)	14 (▲0)	2 (▲0)	9 (2)	▲14 (1)			74 (7)	4.3 (0.1)
	48	10	14	2	6	▲16			67	4.1

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

※当第1四半期連結会計期間より、セグメント別の経営成績をより適切に把握するため、セグメントに帰属する販売費及び一般管理費の配賦基準を見直しており、遡及適用後の数値で前四半期連結累計期間との比較を行っている。

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2018年8月3日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部経営企画IR課

03-6206-7057

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

